

名古屋市病院事業会計 令和3年度決算の概要

○病院事業全体の収支

病院事業は、医師の安定的な確保、医療の質のさらなる向上などの観点から、令和3年度に東部医療センター及び西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化しました。これに伴い、病院事業として設置する病院は、利用料金制による指定管理者制度を導入している緑市民病院となりました。

令和3年度における病院事業会計の収益的収支について、総収益は、東部医療センター及び西部医療センターの名古屋市立大学医学部附属病院化による負債の移管に伴う譲渡益など特別利益を計上したことにより、前年度に比べ、18億1千4百万円余増の429億1千9百万円余となりました。これに対し総費用は、東部医療センター及び西部医療センターの名古屋市立大学医学部附属病院化による資産の出資に伴う譲渡損など特別損失を計上したことにより、前年度に比べ、173億3千7百万円余増の532億3千4百万円余となりました。その結果、103億1千4百万円余の当年度純損失となり、当年度未処理欠損金は183億5千7百万円余となりました。

